



子どもが地域を動かす「まちづくり部」

～子ども食堂・学習支援から生まれた中高生主体の地域共創～



白子町特産玉ねぎを活用した商品開発に取り組み中高生が企画・開発・販売まで主体的に実践している様子

■協働・共創団体の種別

☒ NPO	☐ 地縁	☐ 社協	☒ 学校 大学	☒ 企業	☐ 行政	☐ その他
--------------------------------------	--------------------------	--------------------------	---	-------------------------------------	--------------------------	---------------------------

■協働・共創団体

- ・特定非営利活動法人さくら
 - ・株式会社キースタッフ
 - ・株式会社秋葉乳業
 - ・有限会社プロスパーコーポレーション さくら・介護センター
 - ・LocaM(ローカルチップス)
 - ・日本航空株式会社 顧客販売部
 - ・学校法人早稲田大学 教育学部 田辺ゼミ
 - ・CROP BASE 合同会社(いちご農家)
- 計8団体

■事業費 120 万円

■資金調達手段 寄付金・自主財源・その他

事業概要

特定非営利活動法人さくらが運営する子ども食堂と学習支援から生まれた、中高生主体の地域共創事業である。子どもたちは白子町の地域資源や課題を探究し、企業、映像制作者、学校、行政、農業者、地域住民等と協働しながら、商品開発、動画制作、食農教育、キャリア学習、地域イベントへの出店、フотスポット制作に取り組む。専門家が答えを与えるのではなく、子どもの発想を起点に、実際の商品・映像・地域の場として社会実装することを重視している。

協働・共創までの経緯

特定非営利活動法人さくらは、白子町初の子ども食堂「ばあちゃん食堂」と無料学習支援「寺子屋さくら」を運営し、子どもが安心して過ごし学べる環境を整えてきた。一方、成長した子どもが地域で役割を持ち、自分の考えを実践する場が少ないという課題が見えてきた。そこで2025年7月、「子どもを支援の受け手で終わらず、地域を動かす主体へ育てる」ことを目的に、「まちづくり部」を立ち上げた。

子どものアイデアを商品、映像、地域の場として実現するには、食品開発、映像制作、キャリア教育等の専門性が必要であったため、各分野の企業・事業者へ協働を呼びかけた。単発の講師派遣ではなく、企画初期から打合せを重ね、子どもの学習過程と成果物を共同で設計する関係を構築した。

主な事業内容(年間スケジュール等)

2025年10月～2026年5月

株式会社キースタッフと白子町産玉ねぎを活用した商品開発

企画打合せ6回、試作5回、コンセプト、味、原材料、商品名、パッケージ食品表示等を検討

2026年2月～ LocaM(ローカルチップス)とPR動画制作。打合せ6回入部動機の深掘り、テーマ・コンセプト・台本・撮影・編集を共同実施

2026年3月 日本航空株式会社 顧客販売部と対話型キャリア学習
CROP BASE 合同会社(いちご農家)の協力による食農教育

2026年4月～ 有限会社プロスパーコーポレーション さくら・介護センターとフотスポット制作
株式会社秋葉乳業(成田ゆめ牧場)と交流・商品開発に向けた協議

2026年5月～ 白子玉ねぎ祭り等で商品販売、取材対応

《通年》月2回程度の定例活動、企業・農業者等への訪問・地域イベントへの参加

協働・共創団体内での役割分担

●特定非営利活動法人さくら

事業全体の企画・運営、子どもへの伴走、保護者・学校との連絡、協働団体間の調整、安全管理、広報、成果発信を担う。

●株式会社キースタッフ

食品加工知識と商品開発を組み合わせた学習支援の提供。

●株式会社秋葉乳業(成田ゆめ牧場)

酪農・観光の現場を教育資源として提供し、商品開発や地域ブランドづくりを支援。

●有限会社プロスパーコーポレーション さくら・介護センター

介護施設を地域資源として提供し、子どもの挑戦を地域交流の場として実現。

●LocaM(ローカルチップス)

映像制作を通じて子どもの主体的な地域発信と地域課題の可視化を支援。

●日本航空株式会社 顧客販売部

人生グラフを活用した対話型キャリア学習の共同設計と職業人派遣。

●学校法人早稲田大学 教育学部 田辺ゼミ

生涯教育学を学ぶ学生へのキャリア学習会開催の周知と参加者確保の協力、学習支援。

●CROP BASE 合同会社(いちご農家)

一次産業の価値を体感的に理解する農園体験の提供。

●主な協力先

白子町・白子町教育委員会・白子町立白子中学校は広報、参加周知、会場提供、教育的助言、地域事業者等の紹介を行う。中学校教員は企画段階から商品試作への助言や動画制作にも参加し、学校教育と地域活動をつなぐ役割を担った。

協働・共創事業によって生まれた成果

子どもたちは、用意された体験に参加するだけでなく商品開発、販売、発表、取材対応等を自ら担うようになった。活動開始前には「まちづくりは大人がするもの」と考えていた子どもから、「白子が前より好きになった」「今は自分にもまちづくりができると思う」との発言が生まれている。

白子町産玉ねぎを活用した万能ソース「たまねーぎ」は、5回の試作を経て商品化し、白子玉ねぎ祭りで約200本、その他のイベント等を含め累計590本以上を販売、売上額は452,600円となった。商品開発を通じ、部員8名全員が企画・販売・発表・取材を経験し、自ら考えたことを社会へ伝える経験を積んだ。

商品販売による売上は活動費として管理し、次の商品開発や子どもたちの地域活動へ再投資することで、活動から次の挑戦が生まれる循環を構築している。

活動はNHK「おはよう日本」、千葉日報、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、九十九里経済新聞、東京新聞、中日新聞、広報しらこの9媒体で紹介され、自治体、地域づくり関係者、民間事業者等から5件の視察を受け入れた。商品、映像、地域の場という目に見える成果に加え、子どもが専門家や地域住民と対話し、自分の意見を地域で実現する仕組みが生まれた。

今後力を入れていきたいこと

- ①「知る・考える・つくる・発信する・振り返る」の活動プロセスを体系化し、ワークシート、運営手順、協働ガイド、評価指標を整備する。
- ②活動前後のアンケート、振り返りシート、保護者・教員・協働団体への聞き取りを導入し、子どもと協働団体双方の変化を可視化する。
- ③株式会社キースタッフとの次の商品開発、LocaM(ローカルチップス)との映像発信、日本航空株式会社とのキャリア学習、株式会社秋葉乳業(成田ゆめ牧場)との商品企画を継続し、発展させる。
- ④他自治体や学生団体との交流・試行を進め、子ども食堂や学習支援でつながった子どもが地域参画へ進む仕組みを「白子まちづくりモデル」として県内外へ発信する。
将来的には、本事業を教材・運営手法・協働設計まで体系化し、「子ども食堂から地域参画までを一体的につなぐ地域共創のまちづくりモデル」として県内外へ展開していく。

コラボのコツ!!

- ★コツ1 子どものアイデアを協働の出発点にする
- ★コツ2 必要な専門性から協働相手を選ぶ
- ★コツ3 協働団体にも学びと成果が残る関係をつくる

コツに関するコメント

大人が完成形を決めて子どもに作業を任せるのではなく、子どもの疑問や「やってみたい」を起点に企画する。NPOは子どもと専門家の間を調整し、専門家は子どもの発想を実現可能な形へ整える。また、協働団体を一方的な支援者とせず、新たな教育実践、人材育成、地域との接点等の価値が双方に残るよう設計することで、継続的な協働につなげている。



子どもと株式会社キースタッフによる共同開発



フотスポットが完成し介護施設が開かれた交流の場に

協働・共創事例プロフィール

【活動開始年】 2025 年 7 月

【活動の PR 手法】

ホームページ <https://www.sakura-machinet.com/>

Instagram https://www.instagram.com/sakura_machinet

note <https://note.com/nposakura>

PR 動画、白子町広報、学校・教育委員会を通じた周知、地域イベントでの販売・発表、新聞・テレビ等への情報提供、視察受入れ。

【この事業で活用した補助金】 赤い羽根共同募金(2026 年度／地域交流・広報等)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

2026 年 5 月: NHK「おはよう日本」、毎日新聞、朝日新聞、九十九里経済新聞

2026 年 6 月: 千葉日報、東京新聞、中日新聞、広報しらこ

2026 年 7 月: 讀賣新聞

【問い合わせ先】

担当者: 片岡 電話番号: 0475-36-7180

メールアドレス: nposakura.machinet@gmail.com